



進行する監視社会の恐怖を 小笠原さんが熱く語る 満員の南流山福祉会館

8月19日 南流山福祉会館で「スノーデンが暴いた
諜報の闇：戦争のために合法化される監視と情報操
作」と題してジャー

ナリストの小笠原み
どりさんの講演会を
開きました。

和室に椅子、プロ
ジェクタが見にくい
など不十分な環境で



ましたが、130名を超える参加者が真剣に聞き入り、
衝撃の報告を聞きました。

以下その概要

1. スノーデンの告発

2013年6月 アメリカ国家安全保障局 (NSA) や
CIAの職員であったエドワード・スノーデンが機密文
書を暴露 (世界中の電子通信網に監視装置を張り巡
らせ、メール、チャット、通話、インターネットの
閲覧履歴、携帯電話の位置情報など、個人も含め通
信データを大量かつ無差別に収集していること)。
彼は日本の横田基地でも諜報活動をしていた。

2. 2001年～「対テロ戦争」のためとしての新方針

「Collect It All」 (すべて収集する)。ブッシュ
政権が極秘裏に違法監視をさせ、今は国家とグーグル、
アップル、フェイスブック、マイクロソフト、ヤフーなど
インターネット・通信企業に協力させ顧客情報取得。

**3. 情報は何のために……「テロ防止」というがこの
情報で事件を防げたケースはない。「データは足り
ている」むしろ 外交・経済スパイ(ターゲット・トー
キョー)や政治的追い落としのためのスキャンダル捜
し (毎日新聞の西山事件や文科省の前川氏の件など)、
さらに ジャーナリストの妨害。 平和運動、人権擁
護団体、市民活動への弾圧。 情報操作と世論誘導に
利用。「真実管理(リアリティ・コントロール)」**

4. メディアの壁 スノーデン以前にも内部告発者は
いたがブッシュ、オバマ政権に弾圧され、訴訟を妨
害された。

ローラ・ポイトラスとグレン・グリーンウォルド
の決意：米メディアが政府の秘密を報道するときの
「暗黙のルール」に逆らう。「暗黙のルール」とは

- ①政府に発表内容を事前にご注進する。
- ②報道内容に必ず政府見解を組み込み、「中道語」
を使って記事のインパクトを弱める。
- ③機密文書を1、2点公表し、影響が大きくなりすぎ
ないうちに報道をやめる。

**5. 対テロ戦争17年間に浸透した報道抑制と情報
操作** ■報道でもNHKの報道抑制がすすむ。 ■日本政
府がNSA監視システムの構築に巨費を提供 (横田基
地の「アンテナ工場」に7億円以上。沖縄「象のオ
リ」移設に600億円) ■NSAは日本政府に監視
システム「エックスキースコア」を提供 ■日本の
スパイをNSAで養成。防衛省情報本部電波部・自衛
隊との一体化が進む。 ■日本のNSA監視システムを
使って戦闘 (横田生産のアンテナで、アフガニスタ
ン攻撃、イラク戦争、バルカン紛争、中南米の麻薬
戦争、韓国やタイ、キプロスでの情報収集)

6. 安倍政権が猛スピードでつくる監視法制

2013年 特定秘密保護法 15年 新安保法、マイナン
バー制度、16年 盗聴法大幅拡大 (監視の手段を合
法化する)、17年 共謀罪 (監視の理由を合法化する)

違法な監視はすでに隠れて実行されている→違法な
監視を次々と合法化していく政府

「秘密保護法は実は、アメリカがデザインしたもので
す」「政府はよく監視について『隠すことがないなら
恐れることはないだろう』と繰り返します。けれどプ
ライバシーは何かを隠すためではなく、守るためにあ
る。それは個です。プライバシーは実は、個人の権利
の源です」とスノーデン。

7. 不都合な真実を消去さえしようとする権力—

「真実管理」の時代に

＜参加者の感想から＞

●何て素晴らしい女性でしょうか！ 体全体からあふれる知性・情報
の山に脱帽！ 日本のマスコミの中で活動してほしいですね。世の中
には優れた方がいるんですね。お話は良く(分かり易く)理解できま
した。●監視さらに進んでいくことに危機感を強くもちました。資料を
読んで今日の話さらに考えたいと思いました。●今全世界の人の個人
情報(メールSNSとか)がすっかり丸裸体にされているのを聞いて、
とても権利をはく奪されている心細い気がしています。●お話が上手
で聞き入ってしまいました。国民の知らないところでの動き(国、権力
の欲望で支配され、普段の生活を望むだけなのに、それもかなわ
ない権力社会と化していることに驚愕します。●わかりやすい講演で
した。監視社会の恐ろしさがよくわかりました。巨大な権力と最先端の
技術力に我々はどうのように対抗したらよいのか考えていかなければ
いけないと思います。

「福田村事件」を知っていますか？ その13

「東葛流山研究」に虐殺事件を取り上げて3年後の2002年、私は思いもよらない体験をすることとなりました。香川で講演をしてほしいという依頼が来たのです。

当然お断りしましたが、あまりの熱心さに負けて恩師・山本鉦太郎先生に相談すると、「人生でそんなチャンスはめったにない、行くべきだよ」と、背中を押してくださいました。そこで、話したいことのすべてを文章に書き起こし、香川に行きました。100人近くの人で埋まった会場に足を踏み入れた瞬間、本当は逃げて帰りたい気持ちでした。

私の演目は「知らないことの怖さと差別意識」というもので、差別意識は誰の心にも巣くっている、その醜い心を抑えるためには学習しかないこと、また、震災から80年あまり経た当時でも、野田市側は、単なる民衆の事件として口を閉ざしており、「被害者は社会的生き埋め状態だ」と訴えました。

翌日の地元の新報に「虐殺は人災そのもの」という見出しと豆粒のような私の写真が掲載されました。聞けば、被害地・香川では千葉県の間人は残虐な鬼だと思われていたようです。鬼ばかりではないことを証明するためにも行ってよかったと思っています。

辻野弥生（つづく）

驚きの発言 どこまでアメリカ追従 戦争は機械に任せろ？！

国連軍縮会議で無人機やAI（人工知能）兵器の規制強化を求める決議が審議されています。この中でオーストリアのハイノツィ大使が「AIに人間の生死の判断を託すことはできない。倫理と法を守るためには人間の判断が常に介入しなければならない」と述べるなど、新たな規制を設けてAI兵器の開発を制限すべきだという声が各国から相次ぎましたがアメリカやロシアなどが反対しています。

ところが、なんと日本政府代表部の中井公使は「AIを適切に活用すれば、攻撃対象を限定することで犠牲を最小限に抑えることが可能になる。規制は慎重に行うべきだ」と反対討論。人間は間違ふこともあるがAI兵器はそれを防ぎ、正確に人殺しをする”利点”もあるということです。破壊し殺すことに何の人間としてのためらいや恐れや罪の意識もない人間が戦争を起し、国民を引き込まうとするこの国の恐ろしさ。



無人爆撃機プレディター。イラクやアフガンで実戦。アメリカから操縦しミサイル攻撃できる

東海第二原発の再開に 反対する意見書を

昨年11月、日本原子力発電株式会社は法律で定められた原子力発電の運転期間40年制限を超えた茨城県の東海第二原発の運転期間20年延長を原子力規制委員会に申請しました。事故が起これば、現場からわずか90kmにある流山市は福島第一原発事故以上の甚大な被害を蒙ることは明らかです。老朽化した原発は配管に多くのひび割れなども最近報告されており、福島事故のため、いまだに子供の甲状腺を気に懸け、放射性のごみの扱いに苦慮している我々として他人ごとではありません。再開をやめるよう意見書を出してほしいと「原発なくそう：流山の会」の陳情が市議会に出されています。代表の辻野吉勝さんの意見陳述は9月12日10時から市民経済委員会で行われます。

沖縄県知事翁長さん逝く

遺志をついで玉城デニー氏が立候補予定

8月8日沖縄県の翁長知事が急逝。10月9日には県民葬が行われます。

安倍内閣の暴力的な米軍基地建設強行にまさに命をかけて戦った「県民の知事」でした。



玉城デニー氏

戦い半ばでリーダーを失ったのは大きな痛手ですが、その遺志を継いで立候補することを衆院議員の玉城デニー氏が決意し、オール沖縄で押す体制が作られつつあります。沖縄の平和を破壊し、自然を破壊する基地建設を何としてもストップさせ、県民の生活と平和そして自然を守るため、本土からも声援を送りましょう。

膨大な量の土砂を本土から運び、美しい海を埋め立てて米軍のための基地を作ろうというもので、サンゴやジュゴンだけでなく様々な生物の環境が脅かされ、本土から別の生物が持ち込まれること、超軟弱な海底の地盤や活断層などの問題もあり、とても基地を作ることが許される条件はありません。

おおたかの森駅宣伝と署名

9月9日(日)15:30~16:30

おおたかの森駅自由通路

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会流山◎